

2021 年度 研究班 研究成果報告書

研究名	沖縄・東アジア地域研究と研究主体養成の基盤に関する発展的研究
代表者名	我部 聖
分野／対象地域	沖縄学・地域研究 沖縄・琉球諸島と東アジア地域
研究期間	開始 2021 年 4 月 ～ 終了 2022 年 3 月 (1 年目 / 3 年間)
研究成果要約	大学院生が修士論文のテーマに関連した講師を招く公開研究会の企画・運営に関わり、事前に講師への質問項目を作成した上で研究会での討議に積極的に参加するなど本研究が目指す研究主体養成の基盤作りができた。
研究組織	(研究代表者及び研究分担者) 所員 2 名、 特別研究員 0 名、 計 2 名
研究成果	<p>本研究は、大学院現代沖縄研究科沖縄・東アジア地域研究専攻の事例研究コロキウム(「沖縄地域事例研究Ⅰ」・「東アジア地域事例研究Ⅱ」)を利用し、県内外の人文領域の先進的な沖縄研究・アジア研究に関する報告をおこない、その討議を通じて、沖縄学および沖縄研究、アジア研究の地域学の研究主体の養成と学際的发展のための方法論について検討することを目的とする。また本学大学院生の修士論文の研究テーマに則し、研究主体養成と大学院教育の付加価値を意識しつつ、研究報告を受けて討議した。具体的には、研究主体が自主的にコロキウム等を運営し、その方法を身につけることや、先端的研究や萌芽的研究の報告等に際し、関連する文献の共同討議を通じて研究成果を理解することにつとめた。また沖縄において関心の高いテーマを選択し、市民に開かれた研究を目指したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により対面での実施が難しかった上に、Zoomでの実施に講師の了解を得られず、4回実施した研究会のうち公開研究会は2回のみであった。</p> <p>2021年度における公開研究会は以下の通りである。4回実施したが、非公開の2回については、本研究の目的が公開研究会であるため、助成金を使用しなかった。</p> <p>なお公開研究会に際し、専門領域に関わる大学院生が講師との交渉にあたり、公開研究会に向けて、講師の著書、発表テーマに関連する論文等、大学院生が参考文献を選定し、事前学習をおこなった。</p> <p>①公開研究会：2021年7月24日(土)13時～15時(会場：H201とZoom併用) 講師：田里修(本学名誉教授) テーマ：琉球・沖縄土地の歴史研究の余韻 本学名誉教授の田里修氏を招いて開催した。琉球史を専攻する学生が企画に関わった。準備にあたっては、田里氏の琉球・沖縄土地の歴史研究に関する論文を読み、質問事項を作成した。当日は、コロナ感染防止対策をとりながら、教室で大学院生3名、教員1名が参加し、オンライン(Zoom)で、教員、大学院生らの参加を得て活発な討議をおこなった。</p> <p>②(非公開)研究会：2021年7月30日(金)18時30分～20時(会場：H104) 講師：安次富順子(琉球料理保存協会理事長) テーマ：琉球料理と文化 琉球料理保存協会理事長の安次富順子氏を招いて開催した。臨床栄養学を専攻する学生が</p>

	<p>企画に関わった。準備にあたっては、安次富氏が琉球新報で連載中の新聞記事（「琉球料理は沖縄の宝」）を読み、質問事項を作成した。当日は、コロナ感染防止対策をとりながら、教室で大学院生3名、教員2名が参加し活発な討議をおこなった。</p> <p>③公開研究会：2021年12月3日（金）18時30分～20時（会場：H201とZoom併用） 講師：嘉納英明（名桜大学教授） テーマ：「子どもの貧困」考 名桜大学の嘉納英明氏を招いて開催した。沖縄の子どもの貧困問題と教育をテーマにする学生が企画に関わり、準備にあたっては、嘉納氏の子どもの貧困問題に関する論文を読み、質問事項を作成した。当日は、コロナ感染防止対策をとりながら、教室で大学院生2名、教員1名が参加し、Zoomにて参加した教員、特別研究員らと活発な討議をおこなった。</p> <p>④（非公開）研究会：2022年1月28日（金）18時30分～20時（会場：Zoom） 講師：平良勝保（本学非常勤講師） テーマ：先島の家譜と身分 本学非常勤講師の平良勝保氏を招いて開催した。琉球史を専攻する学生が企画に関わり、準備にあたっては、平良氏の宮古の家譜に関する論文や琉球の家譜と社会に関する論文等を読み、質問事項を作成した。当日は、Zoomで教員2名、大学院生2名、学部生1名が参加し活発な討議をおこなった。</p>
<p>研究成果の 発表実績</p>	<p>田里修氏の公開研究会を『地域研究』に発表することを考えているが、現在文字起こしが難航している。</p> <p>また2022年度以降、本研究に関わった本学大学院生が修士論文をまとめ、その成果を発表することが期待される。</p>